

No.
112

北里大学病院ニューズレター
「窓」

Mado



そのまま手術を行うことのできる分娩室

診療科紹介 周産母子成育医療センター（産科・MFICU）

リスクを知って、
安心・安全なお産を

無痛分娩について

診療科紹介

周産母子成育
医療センター
(産科・MFICU)

リスクを知って、安心・安全なお産を 無痛分娩について

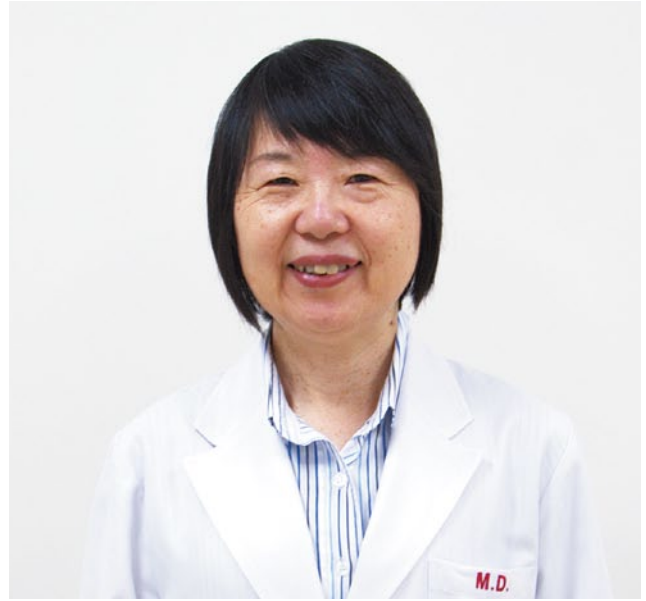
周産母子成育医療センター 産科長 望月 純子

通常のお産からハイリスク妊娠まで対応

周産母子成育医療センターは、年間約1000件の分娩を行っており、地域の基幹病院として重篤な合併症などがあるお母さんや赤ちゃんを積極的に受け入れています。もちろんハイリスクの妊婦さんだけでなく、特に合併症のない妊婦さんでも、希望する方はどなたでも当院で出産することができます。また、里帰り出産の受け入れも行っています。産科は、病院長の海野が主任教授を務め、外来や病棟での診療も行っています。病院長をはじめスタッフ全員で安全な周産期センターを目指しています。

歴史ある無痛分娩

当科の最大の特長は、「無痛分娩」。無痛分娩とは、硬膜外麻酔または脊髄くも膜下麻酔という下半身の痛みを取る麻酔を用い、陣痛の痛みを軽減してお産をする方法です。腰に針を刺し、柔らかく細い管（カテーテル）を留置して、少しずつ痛み止めを入れます。これは体の一部分の痛みを抑える方法で、赤ちゃんとお母さんへの影響も少ないために安全性が高く、世界的に無痛分娩の主流になっています。



最近では導入している施設も増えましたが、1970年代に全国に先駆けて無痛分娩を導入して以来、国内の無痛分娩・産科麻酔の中心的施設として多数の無痛分娩を取り扱っています。心臓に病気のある方、血圧が高い方など合併症のある妊婦さんには医学的な理由で無痛分娩を行っていますが、リスクの少ない妊婦さんは自然分娩か無痛分娩かを選ぶことができます。現在は全分娩の40%、年間約350～400件程が無痛分娩での出産です。(図1、2参照)

図1 分娩数と無痛分娩数の年次変化

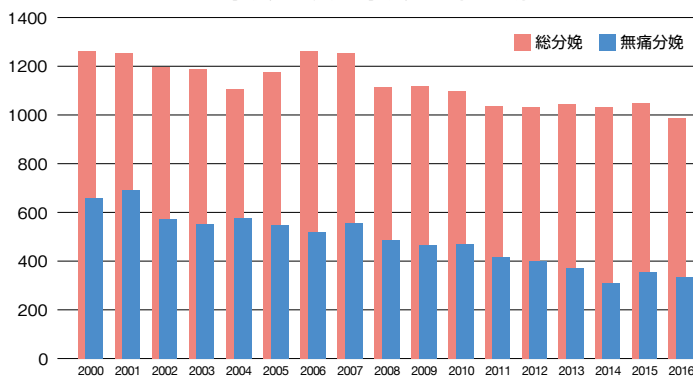
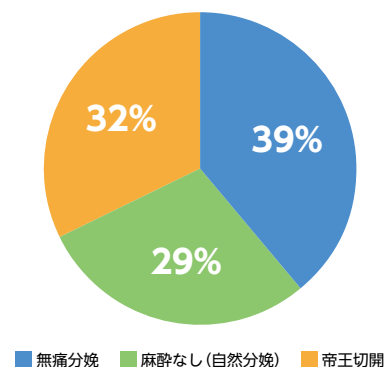


図2 2015～6年の分娩の比率



無痛分娩のメリット・デメリット

メリットは2つあります。1つは、痛みというストレスがないので、子宮にいく血流が豊富になり赤ちゃんに十分な酸素が送られること。もう1つは痛みをとるので、血圧が安定することと、体力が温存され育児がすぐに始められることがあげられます。

反対にデメリットも2つあり、頻度は高くありませんが、全脊麻や硬膜外血腫などの麻酔の合併症や、陣痛促進薬による合併症の可能性があること。これは一旦起こってしまうとお母さんの命や人生に関わったりするような大きな合併症です。2つめは、無痛分娩では吸引分娩、鉗子分娩の割合が増えることです。自然分娩では、赤ちゃんが下りて来た時に自然にお母さんがいきみたくなるので、それほどサポートは必要はありませんが、痛みをとっているといきむ力が弱くなってしまいます。そのサポートのために吸引分娩や鉗子分娩の手技をすることがあります。また、無痛分娩で帝王切開が増える、出血の量が多くなるといったことはありません。そのことはたくさん症例から集めたデータで判明しています。

近頃、無痛分娩に関する悲しいニュースが相次いでありましたが、無痛分娩は「100%安全ではなく、リスクがある」ということをしっかり念頭に置いておけば、何か起こった時にすぐ対応できるのです。当科では、その設備、スタッフとも体制を整えています。

産科専属の麻酔科医が常駐

当科の無痛分娩では、産科専属の麻酔科医が分娩室に常駐し麻酔の導入からお産までしっかり管理します。お産は絶対に安全なものでは決してないので、全身管理ができる麻酔科医が常にいることは私たち産科医にとっても心強いものです。専属の麻酔科医がいれば、帝王切開に切り替えることになっても、

麻酔の導入もスムーズにでき、安心してお産に臨んでいただけます。万一のことがあっても、24時間使用できる中央手術室やNICUのバックアップを受けられる環境が整っています。

リスクを理解し、お産の選択を

お産は100%安全なものではなく、リスクを伴うものです。医学的な介入をして安全にお産ができる場を提供することが私たちの役割だと考えます。妊婦さん自身がリスクを理解いただいたうえで、自然分娩にするのか無痛分娩にするのかなど出産にかかわる選択をしていただければと思います。分娩施設を選ぶ基準は人それぞれですが、安全にお産ができることを一番に考えてほしいと思います。

当院でお産を希望の方は

当院で出産を希望する方はどなたでも受け付けています。北里の患者ID（患者番号）をお持ちの方は、予約センターで予約をお取りください。患者IDがない方は、初診扱いになりますので、直接病院にお越しください。

近隣の医療機関の先生方へ

地域の先生方のご協力のもと、当院への母体搬送システムはしっかり機能しています。ありがとうございます。現状、脳外科に関連する疾患で手術が必要な赤ちゃんの受け入れができていません。ご紹介いただいても他の施設を紹介するかたちになってしまいますのでご留意ください。また、最重症の赤ちゃんを受け入れていますので、比較的軽い症例は一旦受入れても、相模野病院や大和市立病院に転院していただくことがありますのでご了承ください。

Profile / 望月 純子

- 1979年慶應義塾大学工学部卒業、1982年 東京薬科大学薬学部卒業、1996年北里大学医学部卒業。北里大学病院産婦人科病棟医、北里大学医学部助教を経て、2009年より産婦人科講師、2014年産婦人科診療准教授。2008年遺伝学の分野で学位取得。
- 日本産科婦人科学会（専門医）、日本周産期・新生児医学会（母体・胎児専門医）、日本産科麻酔学会（幹事）、日本人類遺伝学会（評議員）、日本遺伝カウンセリング学会、日本超音波医学会、日本糖尿病・妊娠学会、日本救急医学会

外来受診および入院に関する相談について（医療機関専用窓口）

病院・診療所からの外来受診および入院に関する相談の専用窓口を、トータルサポートセンターの看護師が担当いたします。ご相談につきましては、下記へご連絡いただきますようお願いいたします。

電話番号

☎ **042-778-8971** (直通)

対応時間

月～金 **8時30分～17時**
土（第1・3・5） **8時30分～12時**

※上記以外の日時は病院の代表番号へご連絡ください。

☎ **042-778-8111** (代表)

〈お願い〉

- 外来受診および入院に関する相談の際は、診療科をご指定いただきますようお願いいたします。
- 複数診療科の調整を要する場合等は、返答までに時間をいただく場合がございますので、ご理解の程お願いいたします。
- 当院にて診断や治療方針が確定し、医学的にも他院での診療が可能と考えられる患者様につきましては、ご紹介いただいた医療機関、あるいは近隣の病院、診療所等で治療、療養の継続をお願いしております。

医療機関専用のご予約について

医療機関専用電話 (担当) トータルサポートセンター・事務

☎ **042-778-9988**

受付時間

月～金 午前8時30分～午後4時30分
土（第1・3・5） 午前8時30分～午前11時

事前予約サービス（診察予約）ご利用対象の診療科

2017年1月1日現在

総合診療部	神経内科	泌尿器科 ● 前立腺癌で放射線密封小線源療法を希望する患者限定
消化器内科（上部・下部・胆膵・肝臓）	膠原病・感染内科	産科 ● ハイリスクの患者限定
内分泌代謝内科	呼吸器内科	婦人科 ● 不妊内分泌外来 ● 腫瘍外来【完全予約】
循環器内科	血液内科【完全予約】	
腎臓内科	脳神経外科	

※申込書及び手順につきましては病院ホームページをご覧ください。

※完全予約以外は紹介状を持参の上、直接ご来院もしくは「予約センター：当院の診察券をお持ちの患者専用」にてご予約をおとりいただくことも可能となっております。

※ご紹介用の「外来担当表」は病院ホームページに毎月掲載しております。

検査サービス

2017年1月1日現在

生理検査	PET-CT検査
CT検査	核医学検査
MRI検査	内視鏡検査

※申込書及び手順につきましては病院ホームページをご覧ください。

セカンドオピニオン

2017年1月1日現在

医療機関からの申込制となっております。

※申込書及び手順につきましては病院ホームページをご覧ください。